

「毎年3月第2木曜日は“世界腎臓デー”」

世界腎臓デーは、慢性腎臓病（CKD）の早期発見と治療の重要性を啓発する国際的な記念日として、2006年に国際腎臓学会（ISN）と腎臓財団国際協会（IFKF）によって共同で提案され毎年3月の第2木曜日に実施することが定められました。

日本における慢性腎臓病（CKD）の患者数は推計1,330万人。治療が必要とされる患者さんだけでも約600万人と推測されており、その数の多さから「新たな国民病」とも言われています。慢性腎臓病は、簡単にいえば人工透析の予備軍であり、脳梗塞・心筋梗塞などとも関連が指摘される病気ですが、新しい疾患概念であることや自覚症状が少ない病気であることなどから、その危険性は十分に知られているとは言えません。そこで、広く一般の方々に、この病気について知ってもらおう、と定められたのが、この“世界腎臓デー”です。

